上川井だより

9月号

平成３０年８月２８日
横浜市立上川井小学校
校　長　山田　アイ子

「　全力校歌　」から

校　長　　山田　アイ子

３７日間の長い夏休みが終わり、元気な子どもたちの姿が学校に戻ってきました。休み中の大きなけがや病気はなく、久しぶりに会った子どもたちは、体が大きくなったように感じました。６年生と背比べをしてみると、何人にも抜かれていました。体だけでなく、夏休みならではの経験を通して、心もたくましく成長したことと思います。

この夏、様々なスポーツ大会において、多くの日本人が活躍、特に若い力の台頭が目覚ましいことをニュースで目にしました。中でも、夏の風物詩と言える全国高校野球選手権大会に秋田県代表で出場した金足農業高等学校の「全力校歌」に、感動しました。全部員が、海老反りになり声を張り上げて校歌を歌う姿…医学的、音楽的にみると効率のよい声の出し方、歌に合った歌い方などが大切にされると思いますが、私はあの歌い方に、青春真っただ中にいる高校生の気持ちや彼らが大切にしているものが込められているように思えて、胸が熱くなりました。かけがえのない今を生きている、全力で生きている姿が、あの「全力校歌」に凝縮されているように感じ、何とも言えない清々しさ、一生懸命さに応援したくなりました。

学校でも校歌を歌う機会はたくさんありますが、歌詞をしっかりと覚えることが難しかったり、声を出すことが恥ずかしかったりする気持ちが先に立つのでしょうか。校歌に限らず、高学年になればなるほど大きな声を出して一生懸命に歌うことを恥ずかしがり、格好悪いと思う傾向にあるように感じます。それは、本校児童に限らず、どの学校でも同じことが言えると思います。私も学級担任をしていた時に「大きな声を出して一生懸命に歌うことは格好いいことなんだ。低学年の見本になるように声を出そう」と、よく言いました。格好いいとは何か、何が格好いいのか、一生懸命にやることの格好よさを分かってほしいと思い、口酸っぱく言いました。あの頃に、あの「全力校歌」があったら、何も言わなくても、子どもたちは私の伝えたいことを理解してくれたのに残念、そんなことも思いました。

更に、あの「全力校歌」は、生徒の発案で「やるなら何事も全力でやろう」から始まったと聞きました。それを全部員が心を一つにしてやり遂げる姿、チームワークが、私のような高校野球のことをよく知らない者をも感動させた要因かもしれません。

１１月１７日（土）の独立５０周年行事まで、あと２か月余りとなりました。今、上川井小学校に通っている子どもたち、卒業生、地域の皆様、保護者の皆様にとって、上川井らしい温かいお祝い行事になるように、実行委員の皆様と教職員一同、力を合わせて、全力で取り組んでいきます。「一人一人の全力」を合わせて「みんなの全力」にし、本校に関わってくださる皆様に喜んで頂けるように努力します。どうぞご支援いただきますようお願い申し上げます。